

令和7年度

自信をもち 自分の力を発揮する子

<学校経営構想 Ver.3>

R7.3.21



菊川市立小笠南小学校

I 県と市の教育

<静岡県 ふじのくに「有徳の人」づくり大綱>

「有徳の人」の育成

～誰一人取り残さない教育の実現～

- ◆知性・感性・身体能力など、自らの個性に応じて「才」を磨き、自立を目指す人
- ◆多様な生き方と価値観を認め、自他を大切にしながら「徳」を積む人
- ◆「才」を生かし「徳」を積み、社会や人のために貢献する「才徳兼備」の人

<菊川市 教育大綱>

豊かな学びで歩み続ける人づくり

- ◆自立した人
- ◆思いやりのある人
- ◆いつまでも学び続ける人

「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進

II 学校経営

1 校訓

「考える子 優しい子 強い子」

平成18年度から14年間本校の教育目標であり、令和2年度からは校訓として位置づけられた。本校の校訓は、情報化やグローバル化といった社会変化にも、子ども一人一人が主体的に向き合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会を切り拓き、未来の担い手となることができる「生きる力」の育成につながるものである。

- 考える子（知・確かな学力）… 自分で考え わかりやすく表現する子
- 優しい子（徳・豊かな心）… 人との関わりを大切にする子
- 強い子（体・健やかな体）… 丈夫な体をつくり 自信を持って行動する子

2 学校経営の基本理念

子どもは学校で何を楽しみにしているのか。心のふり回りアンケートの結果では、1位は友達(79)、2位は遊び(54)、3位は勉強(40)であった。つまり、子どもは学校に友達と遊ぶために来ているとも言える。子どもは遊びの中でよりよい関係づくりを学んでいく。人は人の中でよりよい人となるのである。これこそが学校が存在する意味である。私たちはそのことを忘れず子どもを指導、支援していかなければならない。

そして、どの子にも自分の良さに気づき、自信をもち、自分の良さをさらに伸ばそうとする力をもたせたい。しかし、努力が報われないこともある。そのようなとき、**自分で自分を励まし、折れることのない強さ、折れても気持ちを立て直せるような力(レジリエンス)**を育成し、自立できる子どもを育てていく。

(1) レジリエンスとは

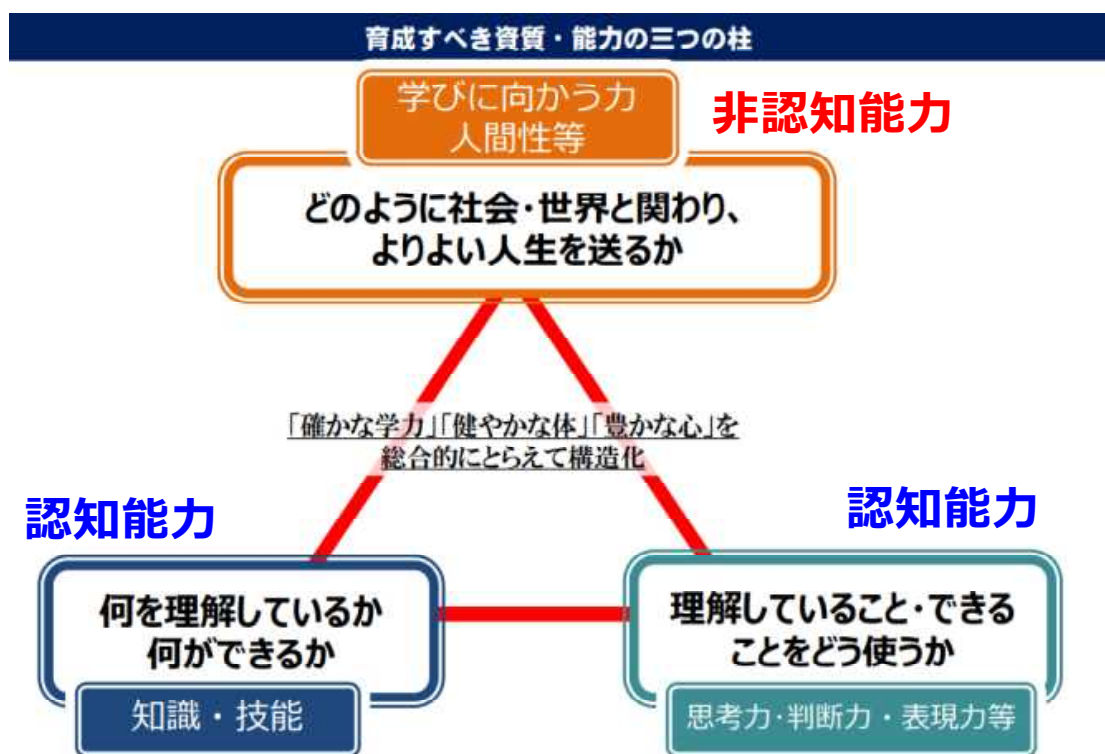
- ア 竹のように曲がってもすぐ戻る【回復力】
- イ テニスボールのように凹んでも跳ね返すという【緩衝力】
- ウ 新たな厳しい環境下でもやっていける【適応力】
- エ 一度折れてしまっても再び立ち上がろうとする【再起力】 等

(2) 「レジリエンスが高い」とは…

- ア 柔軟性が高い
- イ 感情のコントロールができる
- ウ 楽観的な思考をする(ネガティブな思考がダメなわけではない)
- エ 良好な信頼関係を築ける
- オ 自責思考ができる(自分の改善すべき点を熟考する)
- カ 事実を受け止め挑戦を続ける

(3) レジリエンスを高めるために

- ア 非認知能力(やる気、忍耐力、協調性、自制心等)の育成



認知能力…点数にできる知識や技能

＜読み書き、語学力、計算力、運動能力、知能指数 など＞

非認知能力…点数では測れない「生き抜くために必要な力」

＜意欲、自制心、自信、思いやり、忍耐力、コミュニケーション能力 など＞

認知能力を支えているのが、非認知能力

イ 特別活動の重視

自己肯定感、自己有用感を高め自己実現を図る。

3 学校経営方針

めざすのは「『子どもと職員の笑顔があふれる学校』の創造」である。大切なのは、子どもも職員も「学校って楽しい！」と思えることである。人は、自身が「進歩している」「役立っている」と感じたとき「楽しい」と感じる。

私たちは、「進歩したい」「役立ちたい」とする意思や努力を「グッジョブ」という言葉で価値付けていく。

「楽しい」という思いは、進歩の結果に対してあるのではなく、進歩を生み出した自分自身にこそ生まれる。私たちは、子どもの意思や努力を「グッジョブ」という言葉で価値付けることを通して、子どもの心に「進歩(役立つ)へのチャレンジをしてよかった」「進歩(役立つ)したな」「自分もけっこうやるじゃん」「自分も捨てたもんじゃない」「人のためになるってうれしい」という思いを実感させていきたい。

子どもが仲間との関係を築き、人や社会との関わりの中でよりよい人生を送ることができるような基礎を育んでいきたい。

4 学校経営目標

「子どもと職員の笑顔があふれる学校」の創造

- (1) 誰もが安心して生き生きと楽しく活動する。
- (2) 仲間と協力し、創造的で活力ある特別活動や行事に取り組む。
- (3) 授業に主体的に取り組み、学びの実感をもつ。
- (4) 基礎学力の定着をめざし、「自分ごと(自分の事)」になる学びの姿を探究する
- (5) 教師が使命感をもち、同僚と協働し子どもと共に成長する。
- (6) 学びを地域に開き、保護者・地域に信頼される。
- (7) 安全・安心を基盤に、教育効果を高める環境を整備する。

5 学校経営の重点（教育課題）

<子どもの実態>

- 素直に何でも一生懸命に取り組む
- 友達を思い合い、助け合いができる
- △自分から考える力が弱い
- △自己肯定感が低い（自分に自信がない）
- △クラス内でのポジションが固定化され、向上心に欠ける

<菊川市【学びの庭】構想>

岳洋学舎（3小学校、中学校、こども園）との縦の接続と地域のコミュニティとの横の連携

- 1 「学舎」でめざす子ども像を共有し、同じ方向性をもった一貫教育を行う
- 2 地域住民がもつ力を生かし、子育てをしやすい地域を実現する

<磨きたい資質・育みたい能力>

1 自己決定力

- ・自分で決めてやり抜く力。妥協せず、先を見通してやりきる力。

2 レジリエンス

- ・多少の困難さに対しても投げ出さない。逃げない。何とか乗り越えようとする。
- ・回復力、緩衝力、適応力、再起力

3 人間関係形成能力

- ・受け入れる温かさと、突き放す厳しさの両面を備えた人間関係の育成。
- ・誰に対しても温かい思いやりをもった伝え方ができる。

6 学校(学舎)教育目標

「自信をもち 自分の力を発揮する子」

(1) 「進歩したい」「役立ちたい」と努力するチャレンジに「グッジョブ！」

ア 子どもが主役、自分たちで考え創りあげる特別活動・学校行事【心・体づくり部】

(ア) 主体的に取り組むための児童会活動を工夫する。

(南小パワーアップ大作戦、縦割活動、ペア活動、グッジョブカードの活用等)

<活動例>

1 委員会活動

(1) 体育委員会（運動会の色別に、ペア活動を生かす）

ドッジボール大会を開こう、ケイドロ大会を開こう、長縄大会を開こう(①～③)

縦割グループ遊びを計画しよう、秋のスポーツフェスティバルを計画しよう

(2) 放送委員会

昼の放送で朗読を聞いてもらおう、自慢発表会を開こう

(3) 図書委員会

ペアで読書しよう、図書委員による読み聞かせ、好きな本を紹介しよう

(4) 保健委員会

手洗い・うがいキャンペーンをしよう、好き嫌いなく給食を食べよう

(5) 環境委員会

学校をみんなできれいにしよう（汚れているところを見つけて掃除をする）

学校の好きなところを見つけよう

(6) 児童会本部

地域をあいさつでいっぱいになろう、南小からいじめをなくそう

いのちを守る防災訓練を計画しよう、友達の呼び方を考えよう

2 クラブ活動

自分たちのクラブを宣伝しよう、クラブ発表会をしよう

(イ) 学級経営の充実を図る。 → 学級活動の充実（支え合い、高め合う学習集団に）
<活動例>

1 低学年

学級のキャラクターをつくろう、こども園の年長さんと遊ぼう

お楽しみ会を開こう

2 中学年

学級オリンピックを開こう、係活動を工夫しよう、学級の旗をつくろう

学級クリスマス会を開こう

3 高学年

全校クリスマス集会を開こう、全校グッジョブ集会を開こう

睡眠と健康について考えよう（学校保健委員会Week）

地域にグッジョブを広げよう

イ 自ら学ぶ子の育成【学びづくり部、校内研修】

(ア) 対話で解決・追究をする。(表現力の育成)

<例>

- 1 学級活動で授業研究をする
- 2 学級会（話し合い活動）の年間時数を確保する。背面黒板に「学級会コーナー」を設ける。
話し合い活動→教科での話し合いにつながる
- 3 子どもと共に授業計画を立てる。(単元構想の工夫)
- 4 南っ子フェスティバルで表現力を育成する。

(イ) 「もっと学びたい」と感じる授業をつくる。

<例>

- 1 授業で進歩した人大賞、授業で役立った人大賞を決める。
- 2 授業のまとめを自分の言葉で書かせる。

ウ 「元気で明るいあいさつ」と「美しい日本語」【教育活動全体】

- 1 いつでも、どこでも、誰にでも「元気で明るいあいさつ」ができるようにする。
教師からあいさつ、廊下で会ったらこんにちは
- 2 時と場にふさわしい美しい言葉が行き交う場づくりと継続的な指導をする。
授業の言葉、大人との会話は丁寧語で話す。
- 3 職員も社会人として正しい日本語を使う。

(2) 岳洋学舎の取組を通して、地域や他校とつながることで「グッジョブ！」

ア 地域と共に、子どもを育てる

イ 岳洋中、小笠北小、小笠東小、こども園等との一貫教育を進める

(3) 信頼される、頼もしい教職員に「グッジョブ！」

ア 教師として大切なこと(使命感、倫理観、専門性)を意識する

- 1 使命感（子どもたちの未来をつくる仕事に、矜持をもって打ち込む。）
- 2 倫理観（いつでもどこでも、職員モラルの向上に努め、信頼関係を高める。）
- 3 専門性（授業力、生徒指導力、コミュニケーション能力を向上し続ける。）

イ 子どもまかせではなく、**安心して子どもにまかせられるような人間関係をつくる**
→ **〇〇先生の言うことなら信じられる**

ウ 働き方改革で、ゆとりの時間や自分を高める時間を生み出す

- 1 睡眠、心身の健康、笑顔なくして、質の高い授業や子どもとのよい関わりは生まれない。
- 2 自分が人間として成長するための時間も確保することで、子どもたちによりよい指導をすることができる。

(4) 生徒指導の基盤＝特別支援教育の充実で「グッジョブ！」

- ア 人間尊重(人権)の教育を基盤とする
→ **目の前の子どもを一人の人間として意識する**
- イ どの子にも特別支援教育の考え方で接する
- ウ 個に配慮した的確な指導を、全職員の共通理解と組織的な対応で進める

(5) 安全・安心な教育環境整備で「グッジョブ！」

- ア ユニバーサルデザインの考え方を生かした教育環境整備をする
- イ 保護者や地域に対して、説明責任を果たす